

令和元年度高崎市総合教育会議 会議録

日 時 令和元年12月19日(木) 午後2時00分から午後2時45分まで

会 場 庁議室

出席者

(市長)

富岡賢治

(教育委員)

教 育 長 飯 野 眞 幸  
委 員 清 水 久 美  
委 員 重 田 誠

教育長職務代理者 竹内一普  
委 員 塚田展子

(事務局)

教 育 部 長 小 見 幸 雄  
教育総務課長 植 原 政 美  
学校教育課長 佐 藤 明 彦  
教育センター所長 永 井 智 幸  
教育総務課総務担当係長 高 橋 慎太郎

学校教育担当部長 熊井正裕  
教職員課長 大澤克教  
健康教育課長 山崎幹夫

<p>教 育 長</p>	<p>令和元年度高崎市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。  高崎市の富岡市長は教育行政を知り尽くした方で、日ごろから応援をいただいておりますが、この総合教育会議は、大津の中学生いじめ自殺事件を契機に地方公共団体の長が教育行政との関わりが薄いという指摘から法律が改正され、必ずこの会議を持つこととされたところです。  それでは、富岡市長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>市 長</p>	<p>日ごろからお世話になっております。先日行われた「全国学力学習状況調査」で高崎市の学校は平均で非常にいいスコアだったようで、大変結構なことだと思います。これは先生方がしっかり取り組まれていることはもちろんですし、竹内さんや清水さんもそうですが、PTAのリーダー的な方や地域の方に「学力向上大作戦」で頑張ってくださいました。これは先生方が忙しいので、地域の方に取り組んでいただいているものです。全国で「地域と学校が連携する」という言葉を嫌というほど使っていますが、実態はそれほど進んでないと私は思っています。ところが、高崎市の場合は、PTAの方や地域の方にご苦労いただいて、毎週のように補充学習をやっていただいています。これは日本全国、ひとつも例がないものであると私は思っています。それに至るまでご苦労があったと思います。この事業を始めようとしたとき、「街中ではできるかもしれないけれど、我々の地域では教える者が居ないんだ」と随分文句も言われました。今は学歴の高い人が地域にも居らっしゃいますし、できないようだったら高崎経済大学の学生や塾の講師に特別に依頼してもいいという方針でしたが、例外もあります。ご苦労をおかけして、全地域でやっていただいています。また、私自身、娘と息子の勉強を見てきましたが、相当難しくなっていて親が見きれない所があって、子どもも嫌になってやはり途中で止まる場所がありましたが、分からないところを相談するための取組も進んでおり、大変良いことだと思います。そのようなことを地域の方がやっていただいているということは、本当にすごいことだと思っていますし、揺るがないようにしていただきたいとも思っています。</p> <p>また、「いじめ」について、これは教育長が中心になって頑張ってくださいますが、これは油断できません。昔は何かあったときは担任の先生が自分の問題のここのように親に働きかけてくれたりもしましたが、「働き方改革」との関係もありますし、またスクールカウンセラーをお願いすることもできますが、スクールカウンセラーも毎日来られる訳ではないので、それだけでは進まないと思っておりますし、やはり先生が自分自身の問題として取り組まないと進まないと思っております。いじめは数的な報告では、あまりあてにならない部分もあると思うので、これも揺るがないでやっていただきたいと思っております。</p> <p>また、児童虐待が大きな問題となっておりますが、かわいそうな子どもが「助けてくれ」と言っているのに、命が失われてしまったような事件が高崎でもあるのではないかと心配しております。教育委員会や子育て支援担当部で調べましたら、危ないケースがたくさんありました。学校に通告を受けた子どもへの対応を調べたところ、学校からの報告で「全教職員一丸となって虐待を受けている子どもを見守っている」という報告がありまして、教育長の前では言いづらいのですが、これは「よくやっている」のではなく、何もしていないということと同じものも含まれてしまうものではないかと私は理解しています。やはりこの問題は、突っ込んでいかなとけない問題ではないかと思っておりますので、引き続き頑張って</p>

	<p>         いただきたいと思います。また、専門組織を作ったほうがいい問題でもあり、「子ども救援センター」という組織を作り、警察OBも採用して、通告があったら突入までできるような体制を作ったところ、ものすごい数の問い合わせが来ています。警察OBが入ると、ドアを開けてくれない親が開けてくれるようになるケースも随分あるそうで、もっと徹底して頑張ってもらおうと思います。私は、最終的には数年後に高崎に「児童相談所」を作ろうと思っています。お金もかかりますし、適任者がいるか人探しをしていかなければいけないので難しいと思います。中核市でできているところは金沢市と横須賀市くらいしかないのですが、高崎にも作ろうと思っています。立入調査権なども付与されますので、どこまでできるか難しいですが、高崎から子どもの虐待死を一切出させないよう対応をしていきたいと思っています。私は、臨床心理士という資格制度を作るのに関わっていきまして、新しい制度の創設に当たっては反対もありましたが、河合隼雄さんと組んで制度を創設したときの担当者の一人でした。そういう方に専門的に話を聞いてもらうことができる体制に加えて、行動力が伴った児童相談所にしようと思っています。全国の児童相談所でうまくいっている所は多くはないのではないかと思います。行動する児童相談所を調べて、そこと同じような形でしようと思っています。来年の予算でガッツのある児童相談所に職員を派遣して、今から調査して勉強しておいてもらおうと思っています。児童相談所というのは、虐待の対応だけでも大変なのに、援助が必要な子ども達に対する補助金の事務もしなくてはならず、そういう仕事が相当大きなウエイトになってしまうようです。肝心の子ども対策で子どもにかかりきりになりたい担当者が補助金業務で対応できないなんて設計ミスだと私は思っていますが、それが要件になって児童相談所が作られるものですから、応分の対応はしなくてはいけないと思いますが、子どもに徹底的にかかりきりになって、子どもが助けてくれと言っているのに対応できないということがないようにしたいと思っています。       </p> <p>         これからも、ガッツのある教育行政をやっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。       </p>
教 育 長	<p>         ありがとうございました。       </p> <p>         今日は、テーマを「学力向上への取り組み」として、会議を進めて行きたいと思います。       </p> <p>         それでは、今取り組んでいることについて、学校教育課長から説明をお願いします。       </p>
学 校 教 育 課 長	(説明)
教 育 長	<p>         今の説明について、教育委員さんからご意見やご質問がありましたら出させていただきますと思います。       </p>
竹内教育長職務代理者	<p>         市長のお話にもありましたが「学力アップ大作戦」については、5年前に市P連の役員のときに一緒に構築させていただいた思い入れがある部分で、意見があるのですが、誰でも参加できる機会があるのは良いと思います。ただ、やや補足的な授業なので底上げとしてはいいのもので、それが必要な子どもに対してはフォローができていと思うのですが、数学や算数が得意な子に対してはなかなかフォローができていない部分があるのかと気になっているところなのですが、いかがでしょうか。       </p>

<p>学校教育課長</p>	<p>資料に「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック講座」がありますが、希望者は誰でも参加できる講座で、非常に難しい数学の問題に挑戦するのを目的としたもので、発展的な学習を通して、数学への興味、関心をさらに高めていこうという狙いを持って取り組んでいるものです。今年度で8年目になり、今年度は67名の生徒が市内の各中学校から参加していて、簡単には答えが出せない本当に難しい問題に粘り強く取り組みました。講座の修了式では「全体を見ることの大切さを学んだ」とか「シンプルイズベストを忘れずに、今後は数学と向き合っていきたい」という感想を、代表の生徒さんが話されていました。皆様の机の上に、その時の新聞記事等を置かせていただきましたので、参考にさせていただければと思います。中学生が対象になりますが、そのような取り組みを行っております。</p>
<p>市長</p>	<p>それはトップクラスの子どものオリンピックですよね。竹内委員さんのご意見としては、習熟度別編成が必要ということにもなるのではないのでしょうか。やはり子どもの補習学習と言っても、ちょっと成績の良い子ども、いろいろつまずきますよね。それぞれの段階によって多少手をかけないといけないのではないかと思っていますよ。勉強の得意な子には得意な子への対応ができるよう、個別指導を手厚くすればいいのではないかと、指導する人をもう少し増やすとか、そういうことをしたらいいのではないかと思います。ただ、習熟度学級編成にしてしまうと、子どもが嫌になってしまう部分もあると思うので、それも踏まえて対応する必要があるかもしれないですね。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、市長からお話の出ました少人数学級などの授業の工夫について、説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>算数と数学では、各学校に教員免許を持った教科指導助手を配置しております。それによって、少人数であったり、あるいは習熟度別学習の授業を実施したりという取組をしております。また、各授業において、それぞれ個別に対応できるように支援員に入ってもらえるような授業の形態の工夫等も学校では行っています。</p>
<p>市長</p>	<p>お手伝いしてくださる方が、とても対応できないような問題とかもあるのではないのでしょうか。ジュニア数学オリンピックに出るようではなくても、勉強のできる子に対応するのってかなり難しいですよね。私も小学校高学年のとき子どもを教えたけれど、難しかったですよ。説明書を読んだりしながらやりましたね。成績がクラス上位の子を父兄の方が教えるということになると、算数では難しいのではないのでしょうか。対応できる方が足りないようだったら、もう1人増やすなどの対策を取った方がいいかもしれないですね。その日に2時間勉強する予定だったのに嫌になってしまって、そこで終わらしてしまう、なんていうときに、ちょっと手をかけてあげられるといいんだよね。お金が足りないんだったら用意すればいいんだから。それと逆の場合もありますよね。うんと手のかかる子は、かかり切りになってしまう可能性があるから、ちょっと手厚くしなければいけないですよね。両方ですよね。人が見つければ予算で対応したらいいのではないかと思います。算数は、6年生ぐらいになると、私でも手に負えなくなりますよ。だから、そういう人を補足したらいいと思います。</p>
<p>竹内教育長職務代理者</p>	<p>そうですね。得意な分野があればそれをもっと伸ばしていけるような環境があれば、すごく本人にとってもいいですし、底上げも良いのですが、さらにという欲張りな部分ですが、そこは大事ななと思いました。</p>

市 長	<p>ジュニアオリンピックではなくて、恐らく補充学習に出てくる問題としては、成績でいうと中位から上位にかけての問題なので、そのような上位にある子ども達を更に伸ばすには、多少手をかけないと駄目ですね。高崎は成績は良いのに進学実績があまり良くないですよ。東京大学や京都大学の数ではなくて、早稲田大学とか慶応大学に行く子が少ないんですよ。早稲田、慶応が良いと言っている訳ではないのですが、チャレンジ精神がなく、みんな安心な所へ行くんですね。伸ばせるところは伸ばした方がいいですよ。ただ、何も学生のとときにこだわらなくてもいいことではありますけどね。</p>
教 育 長	<p>今、市長から発言がありましたように、伸ばせるものを伸ばすという中で、人が足らなければさらに配置するとか、その辺の配慮をしていただければと思います。</p>
市 長	<p>予算のことは心配しないでください。</p>
教 育 長	<p>底上げだけではなく、さらに丁寧に指導するための施策を検討してください。大変心強いお話もいただきました。その他に何かございますか。</p>
重 田 委 員	<p>「学力アップ大作戦」と「休日学習相談ステーション」は非常に素晴らしいと思います。学年を限定して実施している学校があるというお話や人数がそれほど増えていないというお話をお聞きしましたし、「休日学習相談ステーション」は延べ450人ということで、全体としてみるとまだ少ないので、全体としてのボランティアの人数が少ないのか、ある程度限定して行っているのか、その辺りはいかがでしょうか。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>「学力アップ大作戦」は、各学校によって、学年を限定して、何曜日は何年生というような形で実施しています。したがってその学年は、希望すれば誰でも参加することができるわけですが、全校児童生徒がその日に行くという形ではないので、このような全体としての人数となっております。</p> <p>中学生の「休日学習相談ステーション」については実施時期を工夫しております。期末テスト前など、子ども達が参加しやすく、部活動があまり忙しくない時期など時期に実施しております。</p>
重 田 委 員	<p>中学生は、やはり時期などもあるからですかね。</p>
市 長	<p>この事業はスタートしてから予算を増やせという要求が私の耳には入っていないのですが、教育委員会は遠慮がちだからですかね。もっと実態を掴んで、もっと人を増やさなくてはとか、もっとこうしたいという学校の声に対応するとか、要求した方が良いですよ。「学力アップ大作戦」は目玉の一つだから、実態を掴んで、あまり遠慮することないと思いますよ。予算折衝で止まっていたら、だめですよ。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>ボランティアの数は増えておりまして、地域で協力してくださる方々はどんどん増えてきております。予算等もその分、要求はさせていただいております。</p>
市 長	<p>要求して厳しい反応だった位で、すぐに引っ込めては駄目ですよ。</p>

教 育 長	<p>今日も城山小学校では、この時間帯に「寺子屋」という名前で行っております。少人数で100人を切る学校ですから手は入っているのですが、さらに手を入れようということで、例えば土曜日にも開催しております。土曜日はスポーツ少年団が、朝にサッカーをやるんですね。そのサッカーをやる前にやりましょうということで、時間帯も工夫しております。今回も「学力アップ大作戦」のおかげで、学力テストでも成績が上がってきております。やはり物理的に手を掛ければ成果がすぐ出てくるので、そういう部分は大事なことはないかなと思っています。ありがとうございました。市長から心強いお話もありましたので、負けないでやっていきたいと思っております。</p> <p>その他にいかがですか。</p>
清 水 委 員	<p>市長からのご助言、ありがとうございます。先ほど竹内教育長職務代理者より、数学に関してのお話がありましたが、最近では各家庭でも英語教育に関して力を入れている家庭が多いので、小さいころから、もしくは胎教から英語教育をやっている家庭も増えています。現在は小学校から英語が始まっていますが、小学校に入った時点で子どもに格差が出てきてしまっていると思います。やはり英語に興味関心がある子どもも増えていますし、高崎市では、英語の得意な子ども達の力をより一層伸ばすための取組を何かしてらっしゃいますか。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>各学校では、ALTが全校配置になりましたので、ALTと担任等によるチームティーチングなどで、個別の対応もできるように工夫しております。また、特化した取組については、資料の方にもございます「サマーフェスタ」「サマースクール」「サマーキャンプ」では、誰でも参加できますが、英語に興味、関心のある子どもたち、英語が得意な子どもたちが、非常に集まってきていると感じまして、そういった子どもたちの力を伸ばせるような取組をしております。「サマーフェスタ」は小学生が対象ですが、夏休みに開催しております。英語の世界を楽しむ活動が中心で、会場にブースを作って、スタンプラリー形式で回ります。その中で様々な国の文化や遊びに触れたり、ALTと一緒に体験をしたりするので、今年度は138名の参加がありました。「サマースクール」は中学生が対象ですが、英語で自分の考えを表現する力を養うこと、英語学習に関する意欲の向上を目的に、4日間に渡りALTと1対1で会話ができる時間を確保しており、今年度は97名の参加がありました。「サマーキャンプ」は中学生を対象に榛名湖畔の宿泊施設で夏休み中に2泊3日の間、英語を使って生活する体験活動で、実際の生活場面を通した英会話を中心として与えられたテーマについて英語で議論したり、課題について解決策を英語で考えたりしており、今年度は100名近い応募がありました。</p>
清 水 委 員	<p>イングリッシュサマーキャンプは100名近い応募で、何名が参加できるのですか。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>申し訳ないのですが、施設等の関係もございますので、抽選によって30名の参加になっております。</p>
市 長	<p>これは全市で1回やっているんですよ。そうすると成績の良い子が来るだけになってしまわないでしょうか。各学校に泊まるキャンプなんて、やってみたらどうでしょうか。各学校ごとに地域の公民館などを使って、宿泊で英語の交流をやるとか。「サマースクール」「サマーキャンプ」といったら、やはりちょっと英語の自信のある成績の良い子が来るだけにならないでしょうか。</p>
教 育 長	<p>実態はどうですか。</p>

学校教育課長	活動の様子や表情を見ると、成績が良いというよりは、英語に興味、関心がある子どもたちが集まっていると感じます。
市長	みんなが参加できるような、他の市がやっていないことをやってはどうですか。来年が無理なら再来年に向けて、学校ごとのサマーキャンプなどを研究してみたらいかがですか。宿泊施設は遠くに行かなくてもいいですよ。各公民館や空き建物を使ってみるとかね。そういう広がりを持たせるトライをした方が良いのではないのでしょうか。そして、そんなに英語に関心がない子どもも、ネイティブスピーカーと夜一緒に寝ていれば、きっかけになるかもしれないじゃないですか。そういうトライをしてみたらいいんじゃないかな。
教育長	学校ごとに宿泊施設を確保するには、多少工夫が必要かもしれませんが、そうなれば、抽選で落ちることがなくなるというメリットがありますね。
市長	研究指定校にするという方法もあるんじゃないかな。一部の学校で、ということになるけど、そういう手法もありますよね。そういう取組は、インパクトがあるような気がしますね。
教育長	その他にいかがでしょうか。
塚田委員	先ほど「全国学力学習状況調査」の結果のご説明いただきました。全ての教科で好成績を修めているということは素晴らしいと思いました。と同時に「質問紙調査」で「自分には良いところがある」という答えが高崎の場合は非常に多かったという説明がありました。「自分には良いところがある」という自己肯定感が高いということは、大変すごいことだなと思っています。学級や学校の中で、落ち着いて学習しようとする雰囲気につながっていると思います。そこでお尋ねしますが、学校では自己肯定感を高めるような取組を、何かなされているのでしょうか。
学校教育課長	各学校では、児童生徒が自ら良い所を伸ばし、意欲的に学校生活を送ることができるように、教育活動全般に渡り、自己肯定感を育む取組をしております。まずは、1人1人が安心して自分の力を発揮できるよう、日頃から自己決定の場が持てるよう工夫したり、自己存在感が持てるような学級作りや学級経営に力を入れております。また授業等においても、1人1人の良さや、興味関心を活かしたり、交流を取り入れて互いの良さを学びあったりするなど、児童生徒が授業を通して達成感や成就感を味わえるような授業をできるだけ工夫していけるよう、教育センターの授業改善の取組と併せて、先生方をお願いをしているところでございます。
教育長	少し抽象的な話になりましたが、高崎では学ぶ姿勢も大事だということで、学習規律という取組も同時に行っていますので、その説明もお願いします。
学校教育課長	まず学習に取組む姿勢において、学習規律が重要になってくるということが高崎市のスタンスです。学校訪問や計画訪問等に行った際は、その都度、教育委員会の指導主事が学習規律についてクラスごとに先生方には指導しているところでございます。学習規律がしっかり確立してくると、学校での生活面も安定して来るし、学習への意欲や取組が充実してくると考えております。現在、高崎市の小、中学校、特に中学校では、非常に落ち着いた雰囲気の中で学習が進められております。今回の「学力学習状況調査」の結果についても報告させていただきましたが、今、学校が落ち着いている状況等も大きく影響しているのではないかと考えております。

塚田委員	ありがとうございました。
市長	私が文部科学省にいたときのことですが、全世界中で自己肯定感のない国は、ダントツで日本だったんですね。例えば「あなたの息子はどうだい？」と聞かれて、「マイボーイはなかなかよくやって、お手伝いもするんだよ。」と言うのがアメリカの答えで、子どもに対する肯定意識が強いんですね。それが、日本はダントツで低いんですよ。そういうことから勉強意欲もなくなるんですよね。「自分は駄目だ…」と思っているわけですから。要するに「褒める」ということなんですよ。徹底的に子どもの良い所を褒める。それが1番だという結論だったんです。ですが、そういうことをやるのは、なかなか難しいと思います。そんな指導ができる先生は、そうはいないと思いますよ。私は長い間、公務員生活をしていますが、怒ることはいっぱいあるけど、普段、褒めることはなかなかないですよ。なぜかという、褒めることは難しいんですよ。よほどその人の状況や仕事ぶりを見ていないと褒められないんですよ。先生がおっしゃったことは、すごく大きいことですね。国の調査では、世界中の8割の子どもが「自分は頑張っている。」と答えていますが、日本では2割だったんですよね。
教育センター所長	「自分には良いところがある」という回答は、5割には届きませんでした。約半数の回答でした。
市長	それは非常に結構なことですね。
塚田委員	先日、中学生のリーダー研修会に参加させていただいたのですが、本当にすごい表現力でした。先生達は周りにいて、自主的に学んで生徒本人がどんどん意見を述べて、大人顔負けです。やはり日頃の中で、褒めたり、評価したりされているのだろうと思いました。
市長	生徒会長だからとか、そういうのではなく？
教育長	生徒会長にもいろいろな子がいますし、交代したばかりの2年生ですから、そんなに訓練もされていないと思います。
塚田委員	見ていれば大体のレベルは分かりますが、結構自分の意見を述べられますし、やりながらだんだん自分も意見を述べていくようになる姿が見えたので、なかなかだなと思いました。
教育長	ありがとうございました。 学力向上の取組につきまして、いろいろご意見いただきましたが、市長の方から何かございますか。
市長	教育現場には抽象的な取組も多いですが、建前で話すということは、おかしいと思っています。やはり生でやるべきだと思っています。「みんな頑張ればイチロー選手になれる」なんてことは、ありえないです。やっぱり生で見ないといけないという考えを持っていますから、ちょっと言い方がきつくなってしまうことがあるんですが、皆がイチロー選手になんてなれないですよ。イチロー選手にはなれないけど、「あなたは、もう少し頑張ればレギュラーになれるよ。」という教育が必要だと私は思っています。「夢を持って」と言うけれど、絶対届かない夢を見てもしょうがないですよ。これは空想以外の何物でもありません。でも、何かちょっと頑張れば、毎日コツコツ頑張ればそこまで行くという夢の見方をして欲しいと思うんですよね。



教 育 長	<p>ありがとうございました。 本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございました。 以上で高崎市総合教育会議を閉会いたします。 ありがとうございました。</p>
-------	--